

10度目のイラク取材

戦争 6年目の街と被害者の実情 悲惨! 劣化ウラン弾の被害

ジャーナリスト 西谷 文和



廃油缶で作った難民たちの家

2009年2月から3月にかけて、10度目となるイラク取材を敢行した。今回は激戦地バグダッドに約一週間潜入し、イラク戦争6年目の街の様子、戦争被害者の実情などを取材した。バグダッドで目にしたものは、戦争で家族を、仕事を、手足を、健康を奪われた人々の現実だった。

劣化ウランで2倍3倍に…

口唇口蓋裂の生後3か月の赤ちゃん

写真の赤ちゃんはバグダッド市内の小さな「アル・ワリード診療所」で出会った。生後3ヶ月。口唇口蓋裂といって、口や鼻が裂けたまま生まれてきたのだ。口唇口蓋裂の原因はまだ不明とされているが、広島…

長崎の被爆後、あるいは枯葉剤が使われたベトナム戦争後にも、このような赤ちゃんが多く生まれたともいわれている。「生後すぐに病院に来てくれれば、骨が柔らかいので治療もしやすかった。3ヶ月経過しているのに、顔面の骨が固まってしまい、治療は困難だ」とは、ワリード院長。



口唇口蓋裂の赤ちゃん

生まれつき指がくっついた子ども

待合室に「指がくっついた子ども」がやってきました。ムサーフ君(6歳)の両手を見たとき、思わず息を呑んだ。「生まれつきなの」母親が訴える。「私たちは貧しいので、今日までこの子を治療につれてくるのができなかった。この診療所なら治療



指がくっついている子ども

できるかと思つて。ムサーフ君はバグダッド東部のディヤラ州で生まれた。ディヤラ州はフール・ジャと並ぶ激戦地で、とりわけ米軍による空爆にさらされた地域である。「遺伝子異常…」

次によつてきたのが「生

まれつき歯のない子ども」だ。「見る！乳歯が全然生えてこない。この子の年齢ならそろそろ永久歯に生え変わるのだが、永久歯も全くないだろう」ワリード院長が女の子の口を開けながら「遺伝子異常だ」と解説する。



歯のない子ども

「戦争後、このような子どもはダブル(2倍)になった。おそらく10年後にはトリプルになるだろう」「ウランの影響だと思ふか?」との問いには「間違いない、劣化ウラン弾の放射線によるものだ」と断言した。待合室で患者を数える。口唇口蓋裂の赤ちゃんが1人、2人…。指がくっついている子、歯が生えてこない子、腫の位置がおかしい

子、全身麻痺の子ども…。全部で13人いた。戦争による環境汚染は、想像以上だ

ゴミの中に難民たちの家が…

猛烈な悪臭、通訳も鼻にティッシュ

バグダッドを出て北へ約5キロ、「アルタジ地区」には広大なごみ処分場がある。半砂漠の荒れ果てた土地に生ごみが放置されている。羊や牛が生ごみを食べ、その食べ残しを鳥がついはん

った。「新たなヒバクシャの群れ」を前にして、私は言葉を失った。

でいる。猛烈な悪臭。そんなごみの山の中に難民たちの家が点在し、家の前には大量の黒いビニール袋。

難民たちが拾い集めた廃プラスチックや空き缶、空き瓶などの「商品」がビニール袋に詰め込まれているのだ。ここに住み着いた難民は約3000家族、2千人以上。ほとんどがこの戦争で家を奪われ、流れ流れてここにやつてきた人々だ。

子どもたちもゴミ拾い、しかし「学校に行きたい」

異臭に耐えながら撮影している、子どもたちが集まってくる。サッジャール君(8歳)たちは学校に行っていない。ここで毎日ごみを拾い集める毎日。「学校に行きたいか?」と尋ねると、全員が「もちろん行

きたい」。

松葉村でこちらを見つめる青年がいる。

ハッサンさん(18歳)は2年前、ごみの中から「商品」を拾い集めているときに、クラスタ爆弾の不発弾を踏んでしまった。イラクではごみ集めも危険と隣りあわせだ。

ゴミの家、ゴミで調理、ゴミで収入も…

ハッサンさんの「自宅」を見せてもらう。「自宅」は廃油缶を泥で固めて組み立てたもの。

玄関にはハエが飛び回り、衛生状態は最悪だ。

「水はどうしてるの?」

「国道まで出て汲んでくるんだ」。

「電気は?」

「あそこから」

彼の指差す方向に電柱と電線。つまり「盗電」しているのだ。「食事は?」

「ごみを燃やして調理している」

つまりこの難民たちは

戦争被害者への誠実な補償が必要

ごみで家を建て、ごみで調理し、ごみで収入を得ている。「仕方ないだろ。戦争で家も仕事も奪われたんだ。そんな俺たちに政府は「ここから立ち退け」と迫つてき

悲惨な戦争から6年。先日オバマ大統領、その後ヒラリー国務長官がイラクを電撃的に訪問し、あらためて「イラクからの米軍の撤退」を口にした。撤退するのは早いほうがいいだろう。これ以上米軍がいても、戦死者が増えるだけだし、治安を守っているのはイラク軍なので、米軍の存在意義はすでにない。

しかし「撤退したらすべてチャラ」なのか?イラクにはばら撒いた劣化ウラン弾やクラスタ爆弾の責任は誰が負うのか?誤射で殺してしまった人々への補償は?何より「大量破壊兵器はなかった」のだ。ウソで始まった戦争で、多くの人々が愛する家族を失った。謝罪

西谷さんが代表を務める「イラクの子どもを救う会」事務局は TEL 06-6192-7033 ●同会への募金は、三井住友銀行吹田支店 普通口座3712329 口座名義「イラクの子どもを救う会 西谷文和」 ●郵便振込 口座番号 00970-5-222501 口座名義「イラクの子どもを救う会」

ただでは足りない。誠実な補償が必要だ。戦争だから仕方がなかった「大統領が変わったから関係ない」で済む話ではない。オバマ大統領が今までの「戦争政策を」とのよりに「チェンジ」させていくのか、厳しく監視していく必要がある。

クラスタ爆弾の不発弾を踏んだハッサンさん



10度目のイラク取材